悪性線維性組織球腫

熱傷瘢痕上に生じた悪性線維性組織球腫の1例

村上 信司* 竹宮 聖隆* 大塚 寿* 三木 吉治*

Summary

77歳男，5～6歳ごろたき火で頭部熱傷。昭和59年5月ごろより徐々に隆起。初診時，左頭頂部に29×21×10 mm，赤褐色の結節を認め，表面は平滑，一部びらんし，痂皮をつける。所属リンパ節腫大なし。胸部X線，末梢血液像，肝機能，血清蛋白，電解質異常なし。ツ反強陽性。Ga シンチ正常。CEA，AFP 正常。上部消化管，大腸造影，肝・胆・膵エコー，CTにて異常認めず。腫瘍辺縁から2 cm 離して骨膜を含め切除。組織像で，表皮直下より密に増殖する多形性に富む線維芽細胞様細胞，組織球様細胞の増殖があり，storiform pattern を示す部もみられた。

緒 言

悪性線維性組織球腫（以下 MFH と略す）は中高年齢者の軟部組織悪性腫瘍のうちもっとも頻度の高い腫瘍とされており¹⁾，皮膚科領域でも近年報告例が増えつつある。今回，われわれは，熱傷瘢痕上に生じた MFH の1例を経験したので，皮膚科領域の報告例をまとめ，若干の考察を加え報告する。

症 例

患 者：77歳，男

既往歴：昭和30年ごろより変形性脊椎症

現病歴：5～6歳ごろ，たき火で頭部熱傷。昭和59年6月同部を木の枝で外傷後，治癒不良で昭和60年5月ごろより次第に隆起し，昭和60

年12月16日当科初診となる。

現 症：左頭頂～後頭部に29×21×10 mmの赤褐色，弾性硬の結節を認め，表面平滑。一部びらんし，痂皮をつける。結節周囲には不規則な形の萎縮性瘢痕を認める（図1）。所属リ

図 1.

* Shinji MURAKAMI, Masataka TAKEMIYA, Hisashi OHTSUKA, Yoshiharu MIKI: 愛媛大学皮膚科学教室

図 2.

図 3.

図 4.

ンパ節腫大なし。

検検成績：末梢血液像，肝・腎機能，血清蛋白，脂質，電解質に異常なし。AFP，CEA，胸部レ線，上部消化管，大腸造影，肝・胆・脾エコー，CT，Ga シンチで異常なし。ツ反強陽性。

病理組織所見：結節部の表皮はほとんど壊死

状を示し，腫瘍細胞は表皮直下より密に増殖しており，表皮との明らかな連続性は認めない。腫瘍のほとんどは storiform pattern を示す線維状の増殖部よりなるが，一部に粘液腫様変性を認める（図2）。腫瘍細胞は多形性に富み，線維芽細胞様細胞と組織球様細胞よりなり，巨細胞，核分裂像なども散見され一部で赤血球の貪食像を認める（図3）。PAS 染色では，ジアスターゼ抵抗性 PAS 陽性顆粒をもつ細胞が少数みられる。アザン染色，鍍銀染色では，膠原線維，嗜銀線維を腫瘍細胞間に豊富に認めた。また，腫瘍細胞は，抗ケラチン抗体，S-100蛋白，リゾチーム染色いずれも陰性で，鉄染色では担鉄細胞を認めなかった。

電顕所見：腫瘍細胞のほとんどは r-ER に富む細胞で，細胞間にデスモゾームの形成を認めない。一部でライソゾームをもつ細胞もみられた（図4）。

図 5.

図 6.

治療および経過

昭和60年12月18日より5日間 γ -インターフェロン (TRP-2) 計 8.0×10 JRU を腫瘍の半分に局注したが肉眼的に全く変化を認めず、12月24日、腫瘍辺縁より2 cm 離し、骨膜を含めて切除し、局所皮弁、遊離植皮術を施行した。腫瘍の皮下への浸潤はみられず、インターフェロン局注部は壊死に陥っている(図5右半分)。術後5カ月の現在まで再発を認めていない(図6)。

考 察

病理組織学的診断より、本症例を MFH, stc-riform-pleomorphic type と診断した。

本邦皮膚科領域での MFH の報告例は最近5年間で学会報告を含めて31例あり^{2)~31)}、うち男が18人とやや多く、年齢では50歳以上が約7割を占めた。また、部位では下肢14人、上肢8人、軀幹6人、頭頸部3人で海外での報告¹⁾と大差はなかった。明らかな誘因の記載のあったものが10例あり、打撲・外傷が4例、放射線照射3例、熱傷瘢痕が2例、BCG 接種1例であった。今後、熱傷瘢痕上の悪性腫瘍の鑑別の際、本症も考慮する必要があると思われる。

文 献

- 1) Weiss, S.W., et al: Malignant fibrous histiocytoma. An analysis of 200 cases. Cancer, 41: 2250-2260, 1978.
- 2) 斎藤義雄, 他: Malignant fibrous histiocytoma の1例. 日皮会誌, 95: 1381, 1985.
- 3) 安元慎一郎, 他: Malignant fibrous histiocytoma における好酸球遊走因子. 日皮会誌, 95: 643-648, 1985.
- 4) 高木久江, 他: Malignant fibrous histiocytoma. の1例. 日皮会誌, 94: 1381, 1985.
- 5) 竹松英明, 他: Malignant fibrous histiocytoma. 日皮会誌, 94: 504, 1984.
- 6) 長野博章, 他: Malignant fibrous histiocytoma か, 日皮会誌, 94: 505, 1984.
- 7) 奥 知三, 他: Malignant fibrous histiocytoma の1例. 日皮会誌, 94: 770, 1984.
- 8) 荒木勲生, 他: Malignant fibrous histiocytoma の1例. 日皮会誌, 94: 871, 1984.
- 9) 太田有史, 他: 肺転移をきたして死の転帰をとった悪性線維性組織球腫の1例. 日皮会誌, 94: 1077, 1984.
- 10) 古川雅祥, 他: 悪性線維性組織球腫の1例. 日皮会誌, 94: 1077, 1984.
- 11) 土田哲也, 他: Malignant fibrous histiocytoma の1例. 日皮会誌, 93: 996, 1983.
- 12) 請井智香子, 他: Malignant fibrous histiocytoma の1例. 日皮会誌, 92: 445, 1982.
- 13) 村松 勉, 他: 悪性線維性組織球腫の1例. 日皮会誌, 92: 445, 1982.
- 14) 土田哲也, 他: Malignant fibrous histiocytoma の1例, 皮膚臨床, 26: 1035-1041, 1984.
- 15) 久保俊子, 他: Malignant fibrous histiocytoma と思われる1例. 日皮会誌, 92: 913, 1982.
- 16) 佐藤和彦, 他: Malignant fibrous histiocytoma 日皮会誌, 91: 229, 1981.
- 17) 毛利 忍, 他: 悪性線維性組織球腫と顆粒細胞腫を合併した1例. 日皮会誌, 91: 117, 1981.
- 18) 小原淳伸, 他: 熱傷瘢痕上に棘細胞癌と並列して生じた Malignant fibrous histiocytoma. 臨皮, 38: 443-446, 1984.
- 19) 土居 顕: Malignant fibrous histiocytoma. 西日皮膚, 45: 303, 1983.
- 20) 米沢士郎, 他: 放射線皮膚炎上に生じた angiomatoid malignant fibrous histiocytoma. 西日皮膚, 45: 303, 1983.
- 21) 小幡 秀一, 他: Malignant fibrous histiocytoma? 西日皮膚, 44: 300, 1982.
- 22) 堀江直茂, 他: 放射線照射後に生じた malignant fibrous histiocytoma の1例. 皮膚臨床, 24: 185-190, 1982.
- 23) 成田博実, 他: 粘液型悪性線維性組織球腫. 西日皮膚, 43: 398, 1981.
- 24) 岡崎美知治, 他: 放射線照射後に生じた Malignant fibrous histiocytoma. 西日皮膚, 43: 767-772, 1981.
- 25) 相原満里子, 他: Malignant fibrous histiocytoma. 西日皮膚, 47: 572, 1985.
- 26) 新井陽子: 悪性線維性組織球腫. 西日皮膚, 47: 976, 1985.
- 27) 浜崎洋一郎, 他: 粘液型悪性線維性組織球腫. 西日皮膚, 47: 976, 1985.
- 28) 須藤成章, 他: 血管外皮細胞腫様構造を伴う悪性線維組織球腫の1例. 皮膚臨床, 26: 519-526, 1984.
- 29) 竹内紀文, 他: 粘液型悪性線維性組織球腫. 西

日皮膚, 46: 994, 1984.

- 30) 小野友道, 他: 悪性線維性組織球腫, 皮膚臨床, 24: 451-457, 1982.

- 31) 石氏道夫, 他: 高 Ca 血症をきたし急激な死の転帰をとった悪性線維性組織球腫, 西日皮膚, 47: 940, 1985.